

たな文化遺産

市内には、先人たちが残した有形・無形の文化財が数多く残されています。これらの文化財は、地域の歴史を語る貴重な文化遺産であり、大切に保護されなくてはなりません。保存・活用を図るため、文化財の指定・登録を進めています。昨年度に指定・登録された文化財を紹介します。
 問コミュニティ文化課文化推進係（☎042-387-9923）、生涯学習課文化財係（☎042-387-9879）

旧中村研一郎主屋 旧中村研一郎茶室(花侵庵)

洋画家・中村研一にかかわる2棟の建物が平成31年3月29日付で文化財登録原簿に記載され、国の登録有形文化財（建造物）になりました。



茶室(花侵庵) 外観

茶室(花侵庵)
 昭和35年建設

茶室(花侵庵)は旧主屋の古材を用い、素材の選択と構成に手腕を見せる建築家・佐藤秀三の代表作の一つです。周辺の梅花の香りが建物へ飛び込んでくることにちなみ花侵庵と研一が名付けたと言われています。

主室となる四畳半は、南面に貴人口を設け、北面に床の間、東面に付書院風の出窓を付けています。主室は建設当初のままであり、全体的に竣工時の外観および柱・梁などの主要部材が良好に保存されています。



主室

洋風を主体とした主室と対比的な数寄屋意匠をもつ簡素な離れ座敷としての性格を強めます。

建築的特徴は、旧主屋の古材



古材転用の柱・梁

を転用したことです。柱・梁材や天井板など多くの古材が用いられ、部材の随所に当初の痕跡が残され、素朴で個性的な茶室の意匠を実現しています。

小金井初の国登録有形文化財



主屋外観



客間兼居間

主屋
 昭和34年建設

国分寺崖線の南斜面にある中村研一の旧宅です。建築家・佐藤秀三の設計で、三角形の大屋根が特徴的な主屋は、切妻造り



暖炉の扉

二階建ての伝統木造を基調に、客間兼居間と食堂を一空間で設けるなど現代的な空間構成を取り入れています。



玄関の床

暖炉の扉などは、佐藤のデザインを特徴づけるアイアンワークです。

玄関床の紅殻を用いた大胆な模様づけは佐藤と中村の共同作業の結晶とされています。



旧中村研一郎は、国分寺崖線の高低差や植生・湧水などを利用した建物と庭の空間構成が随所にみられます。「はけ」の景観を生かし、自然に溶け込むような居住環境として重要な価値を持ちます。



中村研一（1895年～1967年）

大正から昭和にかけて、近代洋画壇の重鎮として活躍。空襲で代々木のアトリエを焼失、小金井に移り住み、終生この地で作品を描き続けました。

旧中村研一郎の公開

所中町1-11-13 美術の森

緑地内

■閉園日 月曜日

※内部公開は主室のみです。主屋は、現在、市立はけの森美術館附属喫茶棟(Musashino はけの森カフェ)として活用しています。また、茶室(花侵庵)は施設の老朽化のため、外観のみの公開となっています。